

¡Hola amigos!

RとNの Málaga からの手紙

(049号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2004年06月17日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2004年06月17日
Bar RyN	2004年06月17日
買い物百般	2004年06月17日
エクスカーション	2004年06月17日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。
悪しからず。

* 身近雑記 *

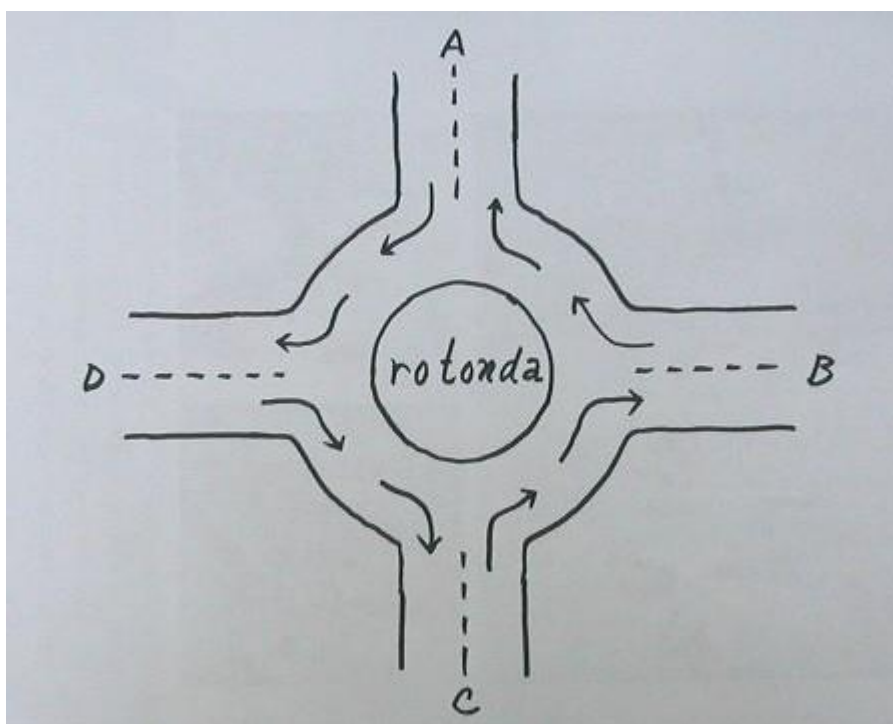
「ロトンダ」ノ巻 2004年6月17日 更新

rotonda と綴ります。環状交差点です。日本ではロータリ rotary と言ってますね、

これは米語で、イギリスではラウンドアバウト roundabout というようです。

日本でも時々見かけますがソウ多くはありませんね。この辺の町では主要交差点は殆どこのロトンダになっています。でもカーデイスでは何故かあまり多くなかったと思

います。 ロトンダ通過の方法は図の矢印の通りです。



大事なキマリは、既にロトンダに入っている車に優先権があること。反時計回りである事。それだけ。例えばAからBに行きたい時はロトンダを反時計回りに四分の三周回ります。Aから来てAの反対車線に入りたければ完全に一回りすれば良いんです。

ロトンダの合理的なところは例えばAから来てCに通り返る場合でも、ロトンダ内の車が優先のうえ、外の車が居なくてもグルッと半周回らなければならないので必然的に速度を落とします。交差点を高速で通り抜ける事は出来ない仕組みです。



ロトンダには車どうしのための信号はありません。ロトンダの手前に信号があってもそれは歩行者のためです。歩行者の横断歩道さえ信号が無い所が多いのです。ロトン

ダの周囲の信号機のない横断歩道は赤白のゼブラに塗ってあります。

赤白ゼブラの横断歩道を人が渡ろうとすると、ロトンダに向っている車は大抵既に減速し始めていますから、案外紳士的に(又は淑女的に)止まってくれます。しかし、ロ

トンダを抜けてきた車はヤレヤレと加速しかけているので要注意。

これはウチのエントランスから200メートル位の所にあるロトンダですが右端の案

内標識板、見えますね。まあ、ざっとこんな具合です。

普通の信号機のある交差点がいいか、ロトンダがいいか、なんともいえないところです。なぜならこの辺では(特にこの町では、という気がしますが)トニカク信号無視が多い。歩行者の方が断然いけません。ハジメツから信号など見ようとしない歩行者がとても多いのです。スペイン人ばかりではなくイギリス人もデタラメ。ジーさんもバーさんありません。だから、極端な話ですが信号があったほうが危ないんじゃない

か、と思うくらい。次の写真はマラガ市の大きなロトンダ。



12日からいよいよエウロコパ2004ポルトガル Eurocup 2004 Portugal の一次リーグが始まりました。初日第一試合早々開催国ポルトガルがギリシャに負ける大番狂わせ。第二試合のスペイン対ロシアは、スペインが辛うじて勝ちましたものの、快勝とは言い難く、このAグループの二強、「葡」も「西」も今後苦戦が予想されます。

13日、2日目の第一試合スイスとクロアチアは引き分け。そして第二試合、いきなりフランスとイングランドの大激突の大興奮、面白い試合でした。イングランドが一点リードでもう殆どこのままかと思えた終了間際にジダンの連続ゴールで大逆転。ベッカムがペナルティ・キックをはずしたのに比べ、ジダンがフリーキックをダイレクトで決め、続くペナルティもキッチリ押し込んだ事が明暗を分けました。

3日目第一試合イタリーとデンマークが引き分けたのは意外、イタリー元気なし。第二試合のスウェーデンはブルガリア相手にやりたい放題の5対0の完勝。

4日目第一試合はチェコ対ラトヴィア、2対1のまあ順当。第二試合、ドイツ対オランダは互いに譲らず1対1の同点。白熱したいい試合でした。これで一応、一次リーグ (first group phase) 16チームの顔ぶれが出揃ったわけですが、スペイン・ポルトガル・ギリシャ・ロシアのAグループは混戦模様になりそうで気が揉めます。



案の定、16日の第二戦目スペインはギリシャと引き分け、苦境に立っています。ポルトガルはロシアには勝って片目は開きましたが、次の西・葡戦はドッチにも苦しい戦いになります。日本でも衛星中継はしてるんでしょうが、時間帯が悪いですね。これから一次リーグは23日まで毎日続きますが、日本ならNHKに当るTVEが一次リーグ終了まで毎日18時から二試合ずつ実況中継するとはすごい事ですね。決勝は7月4日の予定で、開始から23日間サッカー漬けです。自国でのイベントでもないのに全試合カバーするとは如何にサッカー熱が高いかの証拠でしょう。

ハカランダは殆どの木が満開を過ぎ、チョッとみっともない姿になっています。この花は花びらが無く壺状の花が房になっているので、散る時は花の付け根からポトッと落ちてしまいます。ハラハラと散る桜の花吹雪といった風情はありません。

ハカランダと並んで、街路樹に多いナランホ **naranjo**(=オレンジの木)には新しい実が鶏卵程に育っています。去年色づいた実も落ちずにそのまま残っています。

六月に入って北の国から海水浴客がどっと押し寄せてきました。ウチの周りの中・短期滞在者用アパルタメントは既に満室情態です。デタラメ演奏の流しグループも一気に増え、入れ替わり立ち代りシェリト・リンドの繰り返しでウンザリです。これから9月一杯まで私達にとってはガマンの夏が続きます。北から多くの人がアンダルシアの暑さを求めてくるのに、夏は北へ逃げるのがお金持ちのバカンスらしい。***

* B a r R y N *

「宇和島のジャコ天」ノ巻 2004年6月17日 更新

伊予宇和島出身の知人に「ジャコ天」というものをプレゼントしてもらったことがあります。「田中蒲鉾」という会社の製品で、さつま揚げのようなもの。勿論、「伊予」ですから「薩摩」である筈はありませんが、要するに魚のすり身を蒸して揚げたもの。謳い文句では地元宇和海で取れたジャコ(雑魚)をつかったもの、と言っていますが、
歯ごたえといい、味といい、申し分なくおいしいものでした。

新鮮なうちはそのままサッと湯通しして生で、ワサビ醤油でも、生姜醤油でも、七味醤油でも、いっそ何にもナシでかぶりついても、そりゃ、ウンマイものでした。田中蒲鉾のジャコ天、ご存知の方もいると思いますが、如何？ デパ地下には売っている所もあります。製品には三種類あって、ジャコ天、といっているのはいわしのすり身が入ってネズミ色のもの。ミ天、というのは白身の魚だけを使った白い色。そして、カワ天、というのがさつま揚げ風に茶色く色づくまで良く揚げたもの。私達はジャコ天とミ天、特にジャコ天が一番のお気に入りでした。

初めてこれを送ってもらって以来、何度も田中サンから直送してもらっていました。そのうち大手デパートの食品売り場でも見つけましたが、宅配便で直送してもらった方が、ヨリ美味しく感じられてそれ以後も田中サンから取り寄せを続けていました。その当時、製造元から直送してもらっていたものは、小豆島「甚助」の半生ウドン・ソバ。茨城県木内酒造のネスト・ビールのヴァイツェンとアンバー・エールとデュンケル。ジャコ天齧って、ネスト・ビール呑んで、甚助のウドン・ソバでシめればもう言う事なし。フトコロが許せばこの三つを取り寄せては至福の時を過ごしました。

アハハ、言う事がチョッと大げさですね。くいしんぼのささやかな贅沢。当時ビールの密造にも熱が入っていたので、ネスト・ビールの味はいいお手本になりました。味の点ではかなり近いモノができたと自画自賛していましたが、香りだけはどうしても適いませんでした。そこが自作・密造の限界でしょうか。



これが、そのジャコ天、と言ったら、いよいよオツムがチョットおかしくなったか、と思われそうですが、これが実にそのナント言うか、歯ごたえといい、舌ざわりとい

い、味といい、ジャコ天にととても似てるんです。色はカワ天。

コレはドイツのソーセージですが、以前「サルチーチャ」という項でパックの写真をお見せしたモノです。生の時は白っぽいもので香草の微塵が黒い点になって入っています。このソーセージは茹で、蒸し、煮込みでばかり食べていました。ところが味は申し分ないのですが、皮が硬くてどうも食べ難いんです。そこで先ずフライパンでよく皮を焼いてから使っていました。暑くなってからは煮込むものを作ることが少なくなって、ある日フライパンで焼いたままを食べてみたんです。4～5種類のお気に入りのソーセージを、コレはボイル用、コレは煮込み用、これは焼いて、と食べ分けてい

るんですが、この種類はそれまで焼いただけで食べた事は無かったんです。

ウン？ ナカナカいけるじゃないの。どこかで食べた事ある味だなー。でも、そのときはまだ気づきませんでした。その後焼き方も少しずつ変わって最終的には写真のように少量のオリーブ油で揚げ焼きみたいなものになりました。ある日揚げたてに七味を振りかけてみました。そして一口齧って、ハタと思ひ当たりました。ウン、そーだ、コリヤ、そのまんまジャコ天だー。私達はチョット古くなったジャコ天はやはりオリーブ油で焼いて七味で食べていたのです。ドイツの豚はジャコの味か？***

* 買い物百般 *

「再びマラガ」ノ巻 2004年6月17日 更新

ずっと以前、創刊して間もない頃、マラガ酒の話をしましたが覚えておいででしょうか？ もうお忘れかも知れないし、その頃は、まだこのHPの読者ではなかった方も

いらっしゃる筈なので、マラガ酒についてまた蒸し返します。

その前に、先ずヘレスについて少しお話しします。ヘレス **jerez** というのはヘレス・デ・ラ・フロンテーラ **Jerez de la Frontera** という町で造られる白ワインの一種です。英語ではシェリー **sherry** といって食前酒として良く呑まれるものですね。

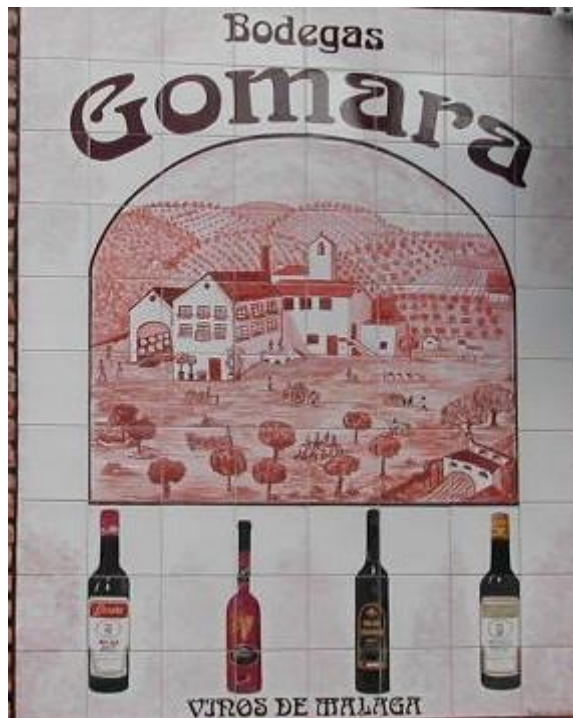
醸造法について詳しく知っているわけではありませんが、ヘレスを一言で説明すると出来上がった白ワインを木の樽で長く寝かして独特の香りをつけたもの、と言えいいでしょうか。そして、ただ寝かせるだけでなく、例えば五年モノを樽から半分取り出してそこへ四年モノを半分混ぜ、その四年モノの樽へ三年モノを半分混ぜ、という風に順繰りにブレンドを重ねていくところに各ボデーガ **bodega**=醸造所のノウ・ハウがかくされているのだそうです。実際にどうやるのかは各ボデーガによって微妙に違うのでしょうし、その方法についてこれ以上の知識はありません。味は辛口から甘口まで色々。色も無色に近い金色から濃い琥珀色まで色々。

又、もう一つマンサニーヤ **manzanilla** というのがあって、これはヘレスの近くのサンルーカル・デ・バラメーダ **Sanlúcar de Barrameda** という町で造られるものです。

これも醸造法や寝かし方は多分ヘレスと同じようなものだと思います。

知らずに呑めばヘレスだと思ってしまうでしょう。でもサンルーカルの人たちは「チガウ」と言い張るでしょうね。

そして、マラガ **malaga** ですが、ヘレスがヘレスで造られるようにマラガはマラガ周辺で造られます。醸造法やブレンドのやり方はヘレスやマンサニーヤと殆ど同じではないかと思います。ヘレスは食前酒として呑まれるといいましたが、なかにはかなり甘いものもあって、そういうのはカフェと一緒に食後に向いているでしょう。



マラガも辛口から甘口まで広い幅がありますが、甘味の強いものは、葡萄を少し干して糖度を高めてから仕込むのだそうです。そういうのはほのかに干し葡萄の香りがします。ヘレスを中間に置くとその幅半分甘口にずれているのがマラガ、反対に幅半分辛口の方にずれているのがマンサニーヤという感じです。なおこの三つは銘柄ではなく、産地と醸造方の分類です。アルコール分は三者とも大体15度、古いものは17～8度です。普通、白は11～12度のものが多いですし、赤は13度前後。だからヘレスやマラガを呑むグラスはワイン・グラスよりは小ぶりです。

写真のゴマラ **Gomara** という銘柄はマラガ酒の一つです。このボデーガの出店が隣町フエンヒローラの公設市場の中であって、樽から量り売りをしてたんですが、私達がしょっちゅう行くので店番のオバちゃんとはすっかり顔なじみになっていました。ところが春以来、行くたびにこの店が休んでいたのです。初めて休業になっているのを見た時、向かいの八百屋のオネーさんが、オバちゃんは風邪を引いてると教えてくれたのです。それ以後もいつ行ってもシャッターは下りていましたが、先日行った時はシャッターは開いていて、店は空っぽになってしまっていました。オバちゃんに何か異変があったであろうことは間違いありません。私達が一ヶ月行かないと、どうかしてたの、と気遣ってくれたオバちゃんだったのに……。私達のお気に入り商品が次々と姿を消してしまうと前に言いましたが、今度は店そのものまで……。***

エクスカーション

「カーディス汽車の旅」ノ巻 2004年6月17日 更新

先週のアップロードの前日、またカーディスへ行ってきました。7・8月になると、私達が望むような海の見えるところは、夏のバカンス用に短期・高料金で貸すところ

ばかりになるので、その前にもう一度顔を出しておこうと思ったのです。

そして、前々から乗って見たかったトレン・レヒオナル **tren regional** (=地方鉄道) でいってみようという事になりました。近くに国鉄代理店を兼ねた旅行社があるので

前日に行ってみると、予約は二日前迄でないとダメ、と言われてしまいました。

まあ、イヤどうせガラガラなんだろうから、予約なんかしないでも乗れるだろうと

郊外電車の一番6時45分発で出かけました。また、朝弁持参です。

郊外電車と地方鉄道は同じ国鉄なのにリンクしていません。通し切符も買えないのです。第一この時間、私達の乗る駅の出札口は閉まったまま、切符は券売機で勝手に買えというわけ。券売機に使える小銭がなくてもそれは、オマエが悪い、のです。両替機などというシロモノはついぞ見たことがありません。駅に人が出てくるのは何時でしょう。多分八時かな？ 知りたくもありません。それにしても、国が経営するという事はあまりに弊害が多すぎますね。ノセテヤル、という意識がミエミエです。

出札の窓口も、車内検札の車掌も少数を除いておおむね横柄な態度です。初めは言葉の通じない外国人に対してだけかと誤解してましたが、全く逆で、むしろスペイン人

に対してのほうが、もっと大きな態度である事が分かってきました。

どこやらの国でも時々まだそうゆうボロを引きずった職員を見かけます。東海道線の私達の最寄駅の出札窓口の職員は半数はペケでしたネ。実際は半数以上が、普通の、又は上質の接客をしても、少数の不心得者のために全体の印象としては、半分ペケ、になってしまうのです。コレではマジメにキチンと仕事をしている人は浮かばれ

ません。民営化してからこんなに長くたってもコレですからねー。

国営はイケマセン。スペインの鉄道民営化はいつの事になるんでしょうか。



又、例によって図解です。面倒な人は飛ばしてください。日常生活でも殆ど地図を見ない日はありません。地図がないとどこへも行けない、というわけではありませんが
地図をみて移動した方がより楽しい。地図のない旅、なんて考えられません。

いつもの通り、中段右端がマラガ、左端がカーディス、左上がセビージャです。
手書きの白線が鉄道路線です。朱線はあとで触れますが、いままで行き来したのは別のバス路線です。マラガからはカーディス直行の鉄道路線はありません。マラガからセビージャ行きに乗ってセビージャの二つ手前ドス・エルマナス **Dos Hermanas** 二人姉妹 という駅で、セビージャから来るカーディス行きに乗り換えます。この図ではセビージャの1センチ位下に見えるオレンジ色の丸印(白線がとがっている所)がその町です。こうしてみるとマラガからカーディスへはどの交通機関を使っても無駄が多いことが分かります。距離表を見ると最短の自動車道で約270キロ、直行バスで4時間という事になっています。私達はまだ直行バスには乗ったことがありません、
折角の直行でも、私達の利用できる都合のいい時間帯ではないのです。



これが私達の乗る筈だった07:45発セビージャ行き。ソウ、筈だった、のです。出札カウンターのオジサン（何故、国鉄は、女性でも何のハンディキャップもなくて、きりこみという力仕事でもない職場を女性に開放しないんでしょう？ どこやらの国も民営化してから長いのに、いまだに殆ど男性の職場ですね）は、冷たく一言、コンプレート completo=満席。予約もしないで、なに寝言いつてんの、という感じ。そして次の便なら乗れる（ノセテヤル）と言うんです。次の便って？10:40発、一番の約三時間後。今はまだ7時15分、冗談じゃねーヨ、いくらヒマジンだって、短気も最近は少しはなおったといっても、そんなにや待てないって。そんじゃ、と急遽バス駅に移動、何かいい便ないかと探して見つけたのが、前の地図の朱線。実はこれもカーディス直行便ではなくて、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラ行 **Jeres de la Frontera**、地図の白線と朱線が交わるころまで。出札窓口の女性（セニョリータとは言い難いおトシでしたが、トニカク女性、ここが国営ではない証拠）に、ヘレスでカーディス行きに乗り換え出来ますね？と聞くと、ええ、勿論。じゃあカーディスまで二枚。アッ、それはダメ、ヘレスからは別の会社だから、それはヘレスで買って。しょうがない、じゃあヘレス二枚。大体みんなこんな調子。国鉄同士でも近郊線と地方鉄道は何のリンクもなし、お互いに知らん顔みたいなんだから、違うバス会社とリンクなんかしっこありません。



相互乗り入れなんてことをやっている国は、これから見ればズイブン進んだ国のように思えてしまいます。出札窓口にもうチョット愛想のいい人を並べてくれたら・・・。ヘレス行きのバス路線は初めは海岸沿い。マラガ・ジブラルタルのほぼ中間点マルベージャ **Marbella**、あのベッカム様も豪邸を買ったという「高級」リゾートから一気に山に登ってゆきます。山を上り詰めた所が「崖の町」ロンダ **Ronda**。この辺の山肌は大理石が剥き出しになって白いところが多く、スペインに来たばかりの頃はそれを知らず、雪が積っていると勘違いしていました。

ロンダからヘレスまでの道は私達にとっては初めての体験です。山を下り始めるとじきカーディス県に入ります。途中、こんな山の湖の脇を通りました。アンダルシア州は一見乾燥し切っているように見えますが、実際は結構水資源にも恵まれているようです。カラカラ天気が続いた去年の春から秋に掛けても、水道の断水に対する危機感
はなかったようで、そのテの報道は見たことがありません。

植えてある木は、オリーブが一番多く、次が樅、カーディス県になるとコルクが多くなるようです。自然林は圧倒的に松が多いのは岩場が多いからでしょうか？



山を下りて平原になると、途端に辺りの景色は一転。一面のヒマワリ畑になります。去年初めてカーディスへ行った六月末にも、ルートは違いますがやはりヒマワリの海を走っているような気がしたことを憶えています。向こうの丘の黄色も全部ヒマワリ
右も左も行けども行けども黄色です。ところどころの薄茶色は小麦。

こうやって遠足に出かけるたびに思うことは、スペインって農業国だナー、ということ。かなり大きい都市でも、チョッと街から外れるともう田園。次の街に近づくまではぽつんぽつんと農家が点在するだけ。日本の東京・大阪間のように、どこが都市の境界か分からない程民家がつながっている、なんてことはありません。唯一の例外はコスタ・デル・ソル。マラガからジブラルタルの少し手前のエステポーナ **Estepona** という所まで、東もネルハ **Nerja** 迄、海岸線はほとんど切れ目なくリゾート地が続いています。それより東は知りませんが恐らくスペインではこんなに長い距離、人家が続いている所は外にはないんじゃないかと思います。しかもそこに居る人々は、私達のような長期滞在組を初め中・短期滞在者、通過旅行者など半数は外国人と思われる。そしてスペイン人はサービス業が大半。まあ、特殊地帯です。



ヒマワリ畑が途切れると今度は小麦畑がどこまでも広がります。麦秋という言葉が持つ季節感を最近はトンと忘れていました。それは子供の頃にごく当たり前に見ていた色づいた麦畑を見る機会がなくなっていた所為でしょう。

この麦畑は完全な大農法で、麦踏をするようなキメの細かいモノではありません。所々で収穫作業をしていましたが全部機械任せ。旨い全粒粉のパン、パン・インテグラール **pan integral** もここから発進するわけです。そしてあの小麦ビール・ヴァイツェン、セルベサ・デ・トリゴ **cerveza de trigo** も・・・。

こういう所を走ってみると、主な交通網が首都から放射状にのびているだけで、各地方都市間、即ち環状交通網が発達していない理由も分かるような気がします。各地方都市の周辺はどこへ行っても農業人口が多いのでしょうか、その人たちも自分の収穫を買ってくれる中央の方にだけ目を向けているのではないのでしょうか。鉄道も道路も航空路も主都から放射状のものが目立ちます。もう一つの極はバルセロナかも知れませんが、首都マドリー(ド)に較べると、地理的に明らかに中心たり得ないことが分かります。マラガから出る列車も、首都に向う急行タルゴ **targo** は(はっきりとは知りませんが)7～8両編成で一日6便、所要時間約4時間。かたやセビージャ行きはタッタの2両編成で一日6便、約2時間半。夫々の距離は544キロ対219キロ。旅客運送能力も移動速度も格段の差が有ります。セビージャ行きなんかドウでもいいという感じ。それにしても何故2両しか繋がらないのか、満席でノセテクレナイくらいなら、もう一両繋いだらドーダ。セキニンシャ出て来い、ですよ、ったく。



マラガ・ヘレスの所要時間は途中ロンダでのカフェ(トイレ休憩)をいれて5時間15分。今までの南岸沿いのルートならとっくにカディスに着いている時間です。今日のルートはロンダの山越えがあるし途中の停留所も多いので時間が掛かります。

さて、ヘレスで別会社のカディス行きのバスに乗り換えたのですが、この会社何故か出札窓口を閉めたまま、私達だけでなく大勢のスペイン人もやはり不審そうに閉まったままの窓口に来ては辺りをきょろきょろ、結局切符は乗車時ドライバーから買うしかありませんでした。それならハジメツから窓口なんかイランじゃないか。ほかの会社はちゃんと窓口出札してるのに・・・。

一人一人乗車口で切符を買うので時間が掛かるのは当たり前、時間どおりに発車できないのも当たり前。郷に入りては、とはいうもののどうもこの国の交通機関全般、理解に苦しむ事だらけ。それでも、郷に従わざるを得ないのもまた事実。この国では、何かを能率的にやろう、無駄を省こう、物事を合理的に処理しよう、という考えは決して正統ではナイ、なのでしょう。私達はもうそれに首までつかってしまってるし、何事も急ぐ必要はサラサラないので、しょうがネーヤ、と言っていますが、ビジネスで日本をショッたまま来てる人は、さぞストレスたまるでしょうね。とにかくバスは小一時間でカーディス着。上は半島の付け根から見たカディス湾と街の内海側。湾口は右の方。大型クレーンがによきによき、カーディスは造船の街でもあるんです。

カーデイスへ着いたのは結局15時丁度。6時半チョッと前にウチを出ましたから、トータルで8時間半。たった270キロを移動するのに8時間半、地球が大きくなったと思えば、まあ、いいか。この不便さが、この国のいいところ、と決して皮肉でなく、そう思います。でも些か疲れました。じゃあ今日は奮発して、N念願のパラドールへ泊ってみようか。但し予約してないんだから行ってみなきゃ泊れるかどうか分かんず。ここも国営なんだから予約なしじゃトメテヤランと言うかもね。

フロントで、エーット、予約してないんだけど今夜一晩ドウでしょう？ 国営にも拘わらずレセプション **recepción** はかわいいセニョリータ。ニッコリ。「ハイ有りますよ」やれやれ、デ、いくらですか？「124ユーロ」エーッ、そりゃダメ、もっと安い部屋は？「では、97ユーロのではドウでしょう、デサユノ **desayuno** (朝食)付ですよ」ウーンそれ朝食抜きだったらいくら？「デサユノ抜きですか？ エー、74ユーロです」私、タルヘタ・ドラーダ持ってるんだけど、とここで伝家の宝刀。「エッ、なんですかそれ？」彼女は知らないみたい。ホラ、コレなんだけど。「アー、レンフェ(国鉄)のタルヘタね、それはレンフェだけのものですよ」でもパラドールはこれで割引になると聞いたんだけど。「ハイ、60歳以上の方が予約をした場合は35パーセント引きです、ホラこんな風ですよ」と予約パンフレットをくれました。

しばし顔を見合わせちゃいましたネー。ドラーダ駄目カー、97ユーロ？ 3ユーロの晩酌ビーノが何本買えるんだ？ ヒュー32本！ 一ヶ月分以上じゃないか。ヤメヤメ。ウーン、どうも有り難う又今度来ます、次は予約してね。「ハイ、是非そうして下さい、お待ちしてマース」うーん、いい子だ。笑顔を絶やさない。国営にはもっ
たいない。国鉄は出札オジサンと配置換えしたらドーダ。 アディオース。

イヤー、いい経験しました。だって、今の今までタルヘタ・ドラーダは国鉄にもパラドールにも同じように通用すると聞いていたんです。スペインの人に聞いたんなら、言葉の取り違えは十分ありますが、教えてくれたのは日本人ですよ。しかも現に泊ってドラーダのおかげで安かったと言っているんです。どうやらこの人は全てを日本人経営の旅行社で手配していたらしい、自分じゃ何もしてない。それしかない。だいいち、割引率だって聞いた話とは違って35%、これだから人の話はハナシだけ
何ごとも自分で動いて経験してみないとワカラん、と改めて肝に銘じました。



私達はスペインに来る時の航空券も、イギリスのコーチ(長距離バス)も、空港ホテルも、全て旅行社の世話にならず自分で手配してきました。一週間滞在したイギリスのB&Bだけは娘に探してもらいましたが、スペインに来てからも、全て自分で切符を買って、自分で予約してと、極力、ジブンデを通してきます。勿論、時々失敗も有りますが、それも又楽し、と思っています。

それじゃ、いつもの安ホテル・ペンション探した、と旧市街のヘソ、サン・フアン・デ・ディオス広場 **Plaza San Juan de Dios** に戻りました。先ず二つ星、ここは48ユーロでドゥーチャ **ducha**=シャワーつき、清潔そうだし、まあいいか。ところが8時迄部屋が空かないと言うんです。ソリヤ駄目だ、一時も早くリュックを放り出した。じゃあ次。そして結局前に泊まったオスタル・コロンと同じ路地裏の4~5軒先オスタル・エスパーニャが本日のネグラに決まり。ドゥーチャつきツインで40ユーロ。これぞわが宿、埴生の宿。私達の部屋は一階ガラス張りベランダの一番手前。話が些か長くなりました、今日はこれまで……。本題の汽車の旅は又来週。***
